

# インパクトある活動と「世界をオープンに受け入れる」ことを 国際ロータリー会長エレクト（2026-27 年度国際ロータリー会長）が強調



2026 - 27 年度 国際ロータリー会長  
オラインカ・ハキーム・ババロラ  
Olayinka Hakeem Babalola

トランス・アマディ・ロータリークラブ  
（ナイジェリア・リバーズ州）

1月12日、米国  
フロリダ州オーラ  
ンドで開催中の国  
際協議会でオライ

ンカ H. ババロラ国際ロータリー会長エレクト  
（2026-27 年度国際ロータリー会長）が講演し、  
クラブでの歓迎的な環境づくり、意義あるプロ  
ジェクトの実施、人生を変えるようなロータ  
リーでの体験を通じて、「**持続可能なインパ  
クトを生み出そう**」と呼びかけました。

「ロータリーは私たちを変えました。私たちと  
いう人間を形づくり、より良い人間にしてくれ  
たのです。私たちは“世界を変える”ことをよ  
く話題にします。ポリオ根絶や平和構築につい  
て語ります。しかし、ロータリーが自分自身を  
どう変えたかについては、あまり考えません」

ナイジェリアのトランス・アマディ・ロータリー  
クラブの会員であるババロラ氏は、十代のとき  
にローターアクトクラブで活動したことが、恵  
まれた環境で育ったことによる狭い視野から抜  
け出し、より広い世界を見るきっかけになっ  
たと語りました。その気づきは、地域社会の人び  
とに読み書きを教える活動など、クラブが生み  
出したインパクトを目のあたりにしたことでも  
たらされました。

「ロータリー会員である私たちは、より良い未  
来というビジョンを共有しています」とババロ  
ラ氏。「そのビジョンを現実にするには、自身  
の内なる変化を意識し、解き放たなければなり  
ません。成果だけでなく、インパクトを重視す  
べきです」

変化とインパクトは同じではない、と述べた上

で、ババロラ氏はこう続けました。「変化は始  
まりに過ぎません。インパクトこそが永続する  
のです」

## インパクトを理解する

ババロラ氏は、南アフリカ・ナイズナでの幼児  
教育の拡充や、ナイジェリアでの妊産婦ケアの  
改善など、ロータリー会員がインパクトを生み  
出していると述べました。ナイズナ・ロータリー  
クラブは、地域の女性たちが幼児教育センター  
を開設・運営できるよう支援しました。

「このプロジェクトは何千もの子どもと家庭に  
恩恵をもたらし、今後何世代にもわたって教育  
を提供し続けるでしょう」とババロラ氏。「こ  
のインパクトを世界のほかの地域でも再現でき  
れば、地域社会から信頼と評価を得ることがで  
きます。そして、より多くの地域社会がロータ  
リーを信頼すれば、入会したいという人が増え  
ます」

また、「ナイジェリアにおける健康な家族のため  
の協力」の幅広いインパクトにも触れました。  
妊産婦と新生児の死亡率を減らすこのイニシア  
チブは、2022年に200万米ドルの大規模プロ  
グラム補助金を受領しました。

ババロラ氏はこう説明します。「ロータリーが  
介入する前は、多くの女性が妊婦健診を避けて  
いました。しかし、健診は母子ともに安全な出  
産に欠かせません。ロータリーの支援により、  
妊婦が健診に通うシステムが整い、地域社会か  
らの協力も得られました。受診率がアップし、  
死亡率が下がりました。このプロジェクトは今  
後数十年にわたり、ナイジェリア全土で命を救  
い続けるでしょう」

## より歓迎的な姿勢を

クラブの新しい入会者に対してよりオープンに歓迎するよう呼びかけたババロラ氏は、ローターアクト時代にロータリークラブに入りたいと思ったものの、クラブ会長から冷たい対応を受けた自身の経験について語りました。

「彼（クラブ会長）はこう言いました。“何という厚かましきだ！ただ入会できるわけがないだろう。招待が必要だ”、と」とババロラ氏は振り返ります。「そこであきらめることもできましたが、私はこう言い返しました。“子どもが親の家に入るのに招待が必要だとは知りませんでした”」

当時と比べれば良くなったものの、まだ十分ではないとババロラ氏。一部のクラブは世界をオープンに受け入れるどころか、閉ざされたままであり、若い人たちが尊重されず、考えや背景が異なる人が歓迎されないこともあると述べ、人びとをよりよく受け入れるにはどうしたらよいかを考えるよう促しました。

「例会や奉仕プロジェクトでの皆さんの態度ひとつで、誰かのロータリーのストーリーが始まるかもしれないし、終わるかもしれないのです」

さらに、自身の変化を促すもう一つの方法は、自分のベストを超えることだと述べました。過去の募金活動やプロジェクト、会員増強の成功を振り返り、それを越えるべくさらに挑戦するよう地区リーダーに呼びかけました。

「自分を変えられれば、クラブと地区を変えられます。地区を変えられれば、地域社会を変えられます。そして、地域社会を変えられれば、世界で、地域社会で、自分自身の中で、持続可能なインパクトを生み出すことができます」

## 2026-27 年度 国際ロータリー会長プロフィール

1988年に大学で工学の学位を取得。シェル PLC で要職を歴任するなど、石油・ガス業界で25年間勤務し、4大陸でプロジェクトを実施。リビエラ・テクニカル・サービス社（石油・ガスインフラ供給会社）とリード・アンド・チェンジ・コンサルティング社（管理職コーチングと組織業績アドバイザーグループ）の2社を設立。

ババロラ氏が所属する専門職団体には、ナイジェリア技術者協会、ナイジェリア安全専門家協会、変革管理専門家協会などがある。経済・社会政策について政府に意見を提供する、故郷イバダンの組織「ジェリコ・ビジネスマン・クラブ」のメンバーとなっている。

ローターアクターとして10年間活動し、1994年からはトランス・アマディ・ロータリークラブの会員。2011-12年度に地区ガバナー、2018-20年度にRI理事、2019-20年度に副会長を務めた。2017-23年度にEnd Polio Now：歴史をつくるカウントダウンキャンペーン委員会（2017-20年度副委員長）、2013年～現在はナイジェリア・ポリオプラス委員会（2016年～現在アドバイザー）での役職を歴任。

妻プレバさんと共にポート・ハーコート市に在住。冠名基金とアーチ・クランフ・ソサエティを通じてロータリー財団を支援。シェルターボックスUKの評議員としてボランティア活動も行っている。ポリオのない世界のための地域奉仕賞、RI超我の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状を受賞。